

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年 1月 27日

協議会名: 身延町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山梨交通(株) 身延タクシー (有)中富タクシー	・運行区域 身延地区 下部地区 中富地区 一部町外(市川三郷町岩間)	前回、未達成の項目を中心に目標を設定	A 計画通り、適切に実施された。	B ・乗合タクシー利用者数 目標: 18000人 結果: 16010人 目標は達成できなかったが、利用回数コロナ禍以前の数値に着実に戻りつつある。	・民間路線バス、町営バス等と連携し、より利用しやすい公共交通を目指す必要がある。 ・住民に運行目的、利用方法等をより一層理解してもらうため、広報等を充実させる必要がある。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>前回、未達成の項目を中心に目標を設定するなど目標達成に向けた取組は評価できるが、乗合タクシー利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって町民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
-------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 12月 20日

協議会名: 中央市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山梨交通株式会社 「中央市役所本館～シルクふれんどりい線」	「中央市役所本館～JR小井川駅～山梨大学医学部附属病院～中央市役所玉穂支所～JR東花輪駅～中央市役所豊富支所～シルクふれんどりい」間を運行	<p>【事業評価結果(助言)】 住民を巻き込み、関係者と情報を共有しながら事業を推進する</p> <p>【反映状況】 市内施設のリニューアルオープンと連携し、バス利用促進イベントを開催し新規利用者の獲得を図った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>目標値10,000人に対して約85%(8,518人)の達成率となり、目標達成に至らなかった。</p> <p>【効果】 利用者の固定化が見受けられるものの、高齢者を中心とした自身で交通手段を有さない交通弱者の日々の通院・買い物等生活に密着した移動手段となっている。またJR身延線の東花輪駅、小井川駅、幹線系統へ接続する交通手段として機能している。</p>	<p>市民ニーズに即した公共交通実現のため、デマンド交通の導入等、本市にふさわしい事業の在り方を検討していく。</p> <p>イベントにおける啓発活動や、転入者への時刻表配布、小中学生のコンクール入賞作品の車内掲示、関係部署をはじめ他分野とも連携した利用促進(イベントの開催)など、継続した利用促進を図る。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>市内施設と連携し、バス利用促進イベントを開催するなどの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
-------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月29日

協議会名: 笛吹市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者:石和タクシー(株) 運行系統:笛吹市デマンドタクシーみさかルート	御坂町若宮地区(旧若宮公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)	・前年度の二次評価では、住民を巻き込み、自分事化するような仕組みの検討や定量的な目標を示し、関係者との情報共有をしつつ事業の実施をするよう助言をいただいている。助言を含めた抜本的な交通網の見直しを行うべく、笛吹市公共交通再編事業として、次年度の計画に反映している。	<p>●事業が計画に位置づけられたとおりに実施されている。</p> <p>・欠便や大きな遅延もなく、運行計画に沿った適切な事業が行われた。</p> <p>・情報提供については、市で実施した公共交通出張説明会の中で、他の公共交通との乗り継ぎ等の案内・周知を行った。また、事業者とともに、車両への利用ガイドの設置や、利用者への活用案内等を行った。</p> <p>A</p>	<p>●事業が計画に位置づけられた目標を達成できた。</p> <p>■年間利用者数2,190人に対し、2,930人</p> <p>■市の運行負担額5,695千円に対し、5,489千円</p> <p>・利用者数、運行負担額ともに、目標を達成できた。特に、利用者数は、大きく目標を上回ることができた。</p> <p>・引き続き、事業者とともに活用案内等を行い、利用頻度を増加させる取り組みを行う。</p> <p>A</p>	前年度の二次評価から、住民を巻き込み自分事化していくための公共交通に対する取り組みの実施が必要と捉え、高齢者の介護教室などが再開されつつあることから、介護教室など地域で開催されている高齢者の集まりに、出張説明会として出向き、積極的に情報提供の活動や、公共交通に対する意見交換などを行い、市民が主体的に公共交通に係わることができる場の提供を進めてきた。今年度も実施しているが、市民を巻き込むためには、利用する当事者だけでなく、その周りの支援者など、公共交通を考える人を増やし、より多くの人を巻き込んでいくための取り組みを進めていく必要があると認識している。また、設定した目標に対し、みさかルートは達成することができたが、ふじみルートについては、達成できない点があり、上記のような環境づくりやイベントを活用し、利用者を増やすための事業実施について、内容を含めた検討を行い、改善に努めたい。
事業者:日之出観光自動車(株) 運行系統:笛吹市デマンドタクシーふじみルート	石和町富士見地区(河内公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)～石和町山岸地区(山岸公民館)		<p>・設定した事業だけでなく、「住民を巻き込み自分事化」するための取り組みに向け、前々年度の二次評価結果で助言いただいた「地域が関与する仕組みづくり」を今年度も取り組み、高齢者等の利用者に対する支援者となる民生委員や介護施設との連携を図り、情報共有や、利用促進策の企画など利用しやすい環境づくりを行った。</p> <p>B</p>	<p>●事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>■年間利用者数3,730人に対し、3,779人</p> <p>■市の運行負担額6,654千円に対し、7,203千円</p> <p>・利用者数は目標を達成したものの、運行負担額は、目標を達成できなかった。</p> <p>・引き続き、事業者とともに活用案内等を行い、利用頻度を増加させる取り組みを行う。</p> <p>B</p>	
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	公共交通出張説明会の実施による他の公共交通との乗り継ぎ等の案内・周知等などの利用促進に向けた取組は評価できるが、石和町富士見地区において運行負担額の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。				
	<p>・デマンド交通で乗車人数が目標を達成されたことは素晴らしい。</p> <p>・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。</p> <p>・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。</p> <p>・利用状況を把握し、利用者が集中する時間帯や目的地等があれば、一部を定時定路線にするなど利用者 に合ったサービス内容の変更を検討していただきたい。</p> <p>・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。</p> <p>・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。</p>				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月28日

協議会名: 富士川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社青柳タクシー	平林エリア(路線定期運行) いきいきかん～平林	広報誌や地区の集まり等でデマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。 利便性を高めるため、便数の見直しを実施した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64人/日・満足度91%となり、申請時と比較し利用者は6.7%、満足度は7.1%の増となったが目標値には達しなかった。	利用実績の向上に向け、広報誌や、高齢者の集まり等での出前講座の開催により利用方法の周知を図る。
有限会社青柳タクシー	平林エリア(区域運行) 増穂地区	広報誌や地区の集まり等でデマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。 利便性を高めるため、便数の見直しを実施した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64人/日・満足度91%となり、申請時と比較し利用者は6.7%、満足度は7.1%の増となったが目標値には達しなかった。	利用実績の向上に向け、広報誌や、高齢者の集まり等での出前講座の開催により利用方法の周知を図る。
有限会社豊栄タクシー	小室エリア(路線定期運行) いきいきかん～南小前	広報誌や地区の集まり等でデマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。 利便性を高めるため、便数の見直しを実施した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64人/日・満足度91%となり、申請時と比較し利用者は6.7%、満足度は7.1%の増となったが目標値には達しなかった。	利用実績の向上に向け、広報誌や、高齢者の集まり等での出前講座の開催により利用方法の周知を図る。
有限会社豊栄タクシー	小室エリア(区域運行) 増穂地区	広報誌や地区の集まり等でデマンドの利用方法等の周知をして、利用実績の向上を図った。 利便性を高めるため、便数の見直しを実施した。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64人/日・満足度91%となり、申請時と比較し利用者は6.7%、満足度は7.1%の増となったが目標値には達しなかった。	利用実績の向上に向け、広報誌や、高齢者の集まり等での出前講座の開催により利用方法の周知を図る。
有限会社皷沢タクシー	十谷エリア(区域運行) 皷沢地区	広報誌や地区の集まり等でデマンドの利用方法の周知をして、利用実績の向上を図った。	A 計画通り事業を実施した。	B 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64人/日・満足度91%となり、申請時と比較し利用者は6.7%、満足度は7.1%の増となったが目標値には達しなかった。	利用実績の向上に向け、広報誌や、高齢者の集まり等での出前講座の開催により利用方法の周知を図る。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>広報誌や地区の集まり等で利用方法の周知を行うなどの取組は評価できるが、利用者数および満足度の目標は未達成となった。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって町民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
-------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月28日

協議会名: 甲州市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
甲州タクシー(株)	甲州市塩山地域(松里・玉宮・共通(市街地)エリア)を運行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の変容等の確認。利用状況集計を実施した。 ・WEB予約サービスを導入し、利便性向上に努めた。 ・運転免許自主返納支援事業を通じ、窓口に来られた方に、デマンドの内容や利便性について説明するように努めた。 ・福祉、教育、観光担当等の部署と情報共有を行いながら、今後の公共交通について検討を行っている。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 利用者数 【区域】 【目標】 【実績】 松里エリア 16人/日 11人/日 玉宮エリア 15人/日 9人/日 共通エリア 17人/日 12人/日	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対し大幅に未達。利用者は増加傾向にあるものの、乗合率が低位。広報やHP等によるPRIに加え、利用方法の説明会開催等、今まで以上に力を入れる必要がある。 ・また、高齢の方を中心に公共交通に関するアンケートを実施中であり、その結果を踏まえ、今後の運行方式を、関係各所と連携する中検討していく。
山梨交通(株)	甲州市塩山地域(神金・共通(市街地)エリア)を運行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の変容等の確認。利用状況集計を実施した。 ・WEB予約サービスを導入し、利便性向上に努めた。 ・運転免許自主返納支援事業を通じ、窓口に来られた方に、デマンドの内容や利便性について説明するように努めた。 ・福祉、教育、観光担当等の部署と情報共有を行いながら、今後の公共交通について検討を行っている。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 利用者数 【区域】 【目標】 【実績】 神金エリア 13人/日 16人/日 共通エリア 14人/日 13人/日	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対し未達。利用者は増加傾向にあるものの、乗合率が低位。広報やHP等によるPRIに加え、利用方法の説明会開催等、今まで以上に力を入れる必要がある。 ・また、高齢の方を中心に公共交通に関するアンケートを実施中であり、その結果を踏まえ、今後の運行方式を、関係各所と連携する中検討していく。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>WEB予約サービスの導入による利便性向上策の実施などの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
-------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名: 都留市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富士急バス株式会社	都留市循環線 都留市立病院～都留市駅 谷村・三吉地域	新たな交通形態について、協議会をはじめとして、事業者・国・町内関係部署と協議を行い、再編案モデルを作成した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 年間利用者目標数13,240人に対し、9,122人であった。	検討した再編案に向けて、実証運行を経て効果検証を行い、本格運行に繋げていきたい。
富士急山梨ハイヤー株式会社	東桂線 東桂・谷村地域	新たな交通形態について、協議会をはじめとして、事業者・国・町内関係部署と協議を行い、再編案モデルを作成した。	B	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1台あたりの平均乗車人数の目標1.8人に対し、1.1人であった。	検討した再編案に向けて、実証運行を経て効果検証を行い、本格運行に繋げていきたい。
富士急山梨ハイヤー株式会社	盛里線 禾生・盛里地域	新たな交通形態について、協議会をはじめとして、事業者・国・町内関係部署と協議を行い、再編案モデルを作成した。	B	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1台あたりの平均乗車人数の目標1.8人に対し、1.1人であった。	検討した再編案に向けて、実証運行を経て効果検証を行い、本格運行に繋げていきたい。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	協議会や関係者等と協議を行い、再編案モデルを作成するなどの取組は評価できるが、年間利用者数及び1台あたりの平均乗車人数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
-------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月29日

協議会名: 上野原市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
・有限会社駅前タクシー	・第1.1地域(柵原方面)	※令和6年1月19日の評価結果を踏まえ、事業に反映した内容を記載 【評価結果】 ・自分事化するような仕組みの検討 ・関係者と情報を共有しながら事業を進める 【反映状況】 ◆地域のスーパー等の移転に伴う交通不便地域を解消するため、運行地域の改正を実施 ◆回覧・広報・ライン等の啓発活動 ◆利便性向上を図るため、運行事業者との情報共有(毎月1回)	A ◆利用者数:1,509人/年 :6.21人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C 【達成状況】 ◆すべての系統において未達成であった。 ○第1.1地域(柵原) 目標7.93人 実績6.21人 ○第1.2地域(西原) 目標8.81人 実績7.60人 ○第2地域(大鶴・甲東) 目標8.14人 実績5.84人 ○第3地域(大目・巖) 目標13.66人 実績13.59人 ○第4地域(島田・秋山) 目標10.45人 実績7.48人 ○全地域 目標51.93人 実績41.45人 【分析】 ◆利用方法等を掲載したチラシの回覧、停留所の変更等啓発活動や利便性を高める取組(運行地域の改正)を実施し、利用者の増加を図ったが、回復には至っていないのが現状である。年間利用者は、昨年よりも減少しており、運行開始以降で最も低い利用率となっている。また、上野原市内の高齢者の人口は減少傾向にあるため、利用回復は難しいが今後もPR等の情報発信を継続していく。	◆上野原市内は高齢化率は上がっているが、高齢者の人口は一部地域を除き年々減少しているため、利用者の増加は見込み難い。 ただ、デマンドタクシーは市民であれば誰でも利用可能であるが、高齢者の交通手段として認知されているため、若い世代にも利用してもらえるような啓発活動を今後実施していきたい。 また、今後も事業のPR等の実施を継続していくとともに市民の要望に添った事業にするためにも関係事業者との協議も続けていく。
・上野原タクシー株式会社(R5.10.1~R6.11) ・有限会社島田交通(R6.6.12~R6.9.30)	・第1.2地域(西原方面)		A ◆利用者数:1,847人/年 :7.60人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C	
・富士急バス株式会社(R5.10.1~R6.11) ・上野原タクシー株式会社(R6.6.12~R6.9.30)	・第2地域(大鶴・甲東方面)		A ◆利用者数:1,419人/年 :5.84人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C	
・有限会社四方津交通	・第3地域(大目・巖方面)		A ◆利用者数:3,303人/年 :13.59人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C	
・有限会社島田交通(R5.10.1~R6.11) ・富士急バス株式会社(R6.6.12~R6.9.30)	・第4地域(島田・秋山方面)		A ◆利用者数:1,818人/年 :7.48人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C	

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	運行地域の改正や回覧や広報等を通じた啓発活動の実施などの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
-------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月22日

協議会名: 南アルプス市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山梨交通株式会社	1号車 芦安線 市立美術館～徳洲会病院～白根支所～御勅使～芦安	バスの乗り方、時刻表の見方が分からない市民が多い状況であったため、電話・窓口で問合せがあった際に、丁寧な説明を行った。 また、市民グループを対象に体験乗車を行い利用者の増加を促進するための取組を行った。	A	年間利用数38,030人で、目標人数の32,330人を上回った。 市民や利用者の意見・要望を取り入れ、時刻変更を行った成果及び、その後の周知が利用の増加に繋がった。	バスの乗り方、時刻表の見方が分からない市民が多いため、今後も継続的にバスの乗り方、時刻表の見方を周知する説明会や体験乗車等の広報活動を行う必要がある。
山梨交通株式会社	2号車 八田・白根線 市立美術館～白根支所～徳洲会病院～白根Aコープ～八田支所～樹園		A		
山梨交通株式会社	3号車 若草・甲西線 市立美術館～藤田～やまなみの湯～甲西Aコープ～甲西支所～秋山～市立美術館		A		

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>市民グループを対象にした体験乗車を行う等、利用者の増加を促進するための活動に取り組まれ、年間利用者数の目標を達成されたことを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名: 甲府市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富士急バス株式会社	「上九一色・中道地区コミュニティバス線」 古閑町～市立甲府病院経由～南甲府駅 上九一色出張所～市立甲府病院経由～南甲府駅	「住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい」「定量的な目標を示し、関係者と情報を共有していただきたい」という評価結果を受け、上九一色地区住民の代表者で構成する、上九一色地区公共交通協議会において、コミュニティバスの利用状況や本計画で目標としている数値を示す中で、今後のコミュニティバスのあり方について、自分事として捉えていただくよう努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標について、①、②、③については未達成となったが④については達成した。 目標:①1回当たりの利用者数3.6人以上、②年間利用者数3,600人以上、③フィーダー系統の1回当たりの利用者数3.6人以上、④フィーダー系統の年間利用者数1,700人以上 実績:①2.98人、②2,910人、③2.97人、④1,810人 分析:人口減少などが影響し、コミュニティバスの利用者数が減少傾向にある中で、追従車廃止や運行計画の変更を行い、目標について一部達成した。	・コミュニティバスの利用状況を踏まえた運行計画の適正化について検討を行う。 ・引き続きバス利用者が商品割引サービスを受けられるよう、「バス利用お買物手形事業」の継続に向けて関係各所との調整を行うとともに、更なる周知・PRを行い、利用者の増加を目指す。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	上九一色地区公共交通協議会で住民を巻き込む仕組みの検討を行うなどの取組は評価できるが、1回当たりの利用者数、年間利用者数、フィーダー系統の1回当たりの利用者数の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月10日

協議会名: 蕨崎市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社 蕨崎タクシー	運行系統:竜岡線 (蕨崎市立病院～蕨崎駅～竜岡公民館)	新たな利用者の獲得、利用者の利便性向上を目指し、利用者アンケートや事業者へのヒアリングを行う等、現状の見直し及び新たな公共交通の導入に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された	A 目標値である運行1回当たりの乗車人数2.8人/回に対して、実績値は4.4人/回となり目標を上回った。	利用者の利便性向上のため、アンケート結果等をもとに、AIデマンド交通等新たな運行手法の導入・拡大を検討する。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>利用者アンケートや事業者へのヒアリング等の利用者の利便性向上策の実施に取り組み、運行1回当たりの乗車人数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。 				